

心理学シリーズ 人間嫌い編 <その5>

～課外授業・PART II～

2007.5.31 タツノオトシゴ



今回はいよいよ恋愛編、課外授業・PART IIです。

私と同じ団塊の世代では、昔の映画の題名を思い出しているのでは？

映画の中では、美人で年上の先生が恋の手ほどきをしますが、そんな先生にはめぐり逢えませんでした。タツノオトシゴは若い先生を泣かすことは得意でしたが・・・???
義務教育では、公立の学校だったので、あまり変わった事もなく過ごしていました。中学校ぐらいになると、体育の時間に教室で着替えをするのにとっても気を使います。着替えをする時間が限られており、休み時間に教室の移動を伴う時は最悪です(^^;

一般的に、この頃は女子のほうがマセています。晩生だったタツノオトシゴは、いつもドギマギしていました。チラッと白い胸の谷間を見せられた時は・・・ (☆_☆)

中学校を卒業する時、寄せ書きやメッセージ交換をした記憶は無いですか？

自分から積極的には言い出せず、誰かが話している間に割り込んでお願いするパターンが多かったように記憶しています。中には積極的に女子のほうからお願いに来る人もいます。クラスでアイドル的な二人から頂いたメッセージ、今でも大事にしまってあるはずですが最近の引越しで何処かへ紛れてしまったようです。「美しいバラの花には棘があります」と書いてくれた彼女、その後の消息ではまだ結婚していないようです。気さくで、健康的な笑顔が素敵だった彼女をはじめとして、私の周りでは『不幸せな女性』が多いような気がしてなりません。それとも、そういう女性が多く集まってくるからなのでしょうか？

今、振り返って考えると、私の場合は『安全パイ』の部類なのでしょう(^^; 悩み事や相談事が、ごく自然に受け入れられる性格なのかも知れません。あまり『男』を感じてくれず、恋愛対象にはしてくれません。結婚してからは、大分変わりましたが・・・それと、寂しがりの人から好かれる性分ようです。たぶん、私の前では「悲劇の主人公」を演じることが出来、「安心して悩みを聞いてくれる人」なのです。



また、宗教関係の人からは、よく入会の誘いを受けました。「貴方の背中を見つめると、悲しみを背負った自分自身が見えます」などと、文面を読むと、まるでラブレターのような内容が多く「私は一体何者？」という感じです。福祉の世界でも、その経験を十二分に生かし、相談援助を続けています。そんな経験や性格が影響している訳か自分からラブレターを書いた記憶がありません。正確には「書いて出した事がない！」としておきます（書くことまではしています）

身の回りを整理していると、ときどき面白いものが出てきます。

あて先を書かず、切手も貼ってない封書がありました。記憶では高校を卒業前に書いた手紙で、内容はおぼろげに記憶しています。（封を切らずにそのまま保管しています）それは『遺言書』ではないかと言われますが、まさにその通りです(^^;

彼女が父親の転勤で関西へ引っ越して行く時、渡そうと思って書いた手紙です。心の中を打ち明けられずに、手紙の中に封印してしまいました。「多分、貴方の目に触れることはないと思う」という意味のことを最後に書き、結局渡せず終いでした。しかし、その後の大学受験で失敗し、浪人中に関西に一人で旅行したときに思わぬ展開がありました。電話帳で連絡先を調べ、「近くに来ているので遊びに行っても良いか？」と電話してしまいました。お家に伺うと、妹さんとご両親が外出の支度をし、「どうぞごゆっくり」と案内してくれました。おやつ時間に彼女が作ってくれた“焼きビーフン”最近、娘達を作る料理を見て、「もっと若い時代だったのだなあ！」と感慨に耽っています。



手紙では、もう一つの記録（記憶）が残っています。
 東京から大阪に転勤する時、ヨーロッパ旅行で知り合った彼女に見事に振られました。
 映画を見てから、伊勢丹の近くで“にぎり寿司”を食べながら…
 失意のうちに大阪へ転勤し、手伝いに行った会社で知り合った女性との出来事…
 当時、彼女（双子の妹）は19歳（^^）
 最初のデートは京都南禅寺近くの岡崎公園でした。
 観覧車に、二人きりで乗っていた時間が何と長く感じられたことか…
 近くの南禅寺まで腕を組んで散歩し、ゆったりとした時間を堪能していました。
 南禅院の書院を見学し、縁側から外を見ている彼女の素敵な横顔が思い出されます。

次の週の昼休み、仕事の合間を伺って彼女が近づいて来ました。

「仕事が終わってから、ここで待っていて欲しい！」と言ってメモを置いていきました。

夕方、机の上を早々と片付け、指定場所の喫茶店を探し出し、早目に入りました。

『急に何の用事かな?』と思っていると、彼女が入ってきます。

普段の会話が続き、なかなか本題に入りません。

話題も途切れがちになります。

「……ふう！」と一息つき、「実は私ね……」とやっと話を切り出しました。

「父親の関係の紹介で、近々お見合いをするの……」

彼女には双子の姉がおり、二人ともまだ独身でした。

この時、歴史は動いた！

タツノオトシゴは、全てを理解したのです。

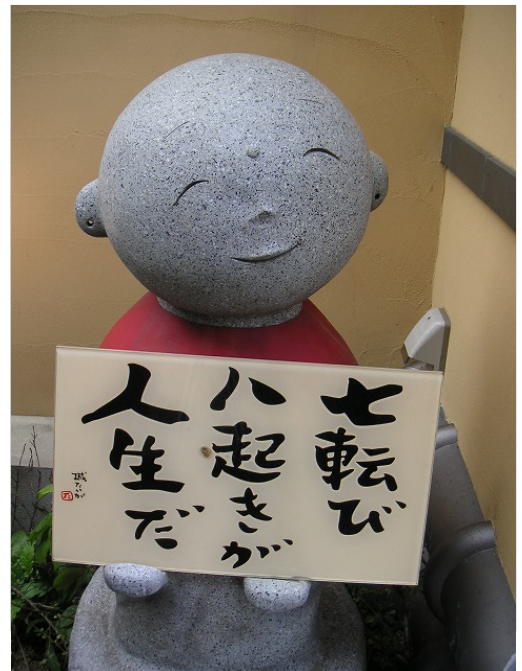
私の前に若き女優（ヒロイン）がそこにいました。

彼女から投げられたボール、受け止めるか打ち返すかが問題です。もう一つ、身をかかわすという方法も考えられました。

心理学的には、本能的に『自己防衛』の世界に入っていくのです。気持ちとは裏腹に、相手の立場を理解した振りをしながら、説得しにかかる…

「別に見合いしたからって、必ず結婚しなければいけない訳でもないだろうし…」

「まあいい経験になるかもネ！」と答えたはずです。



さて女性会員の方、この場合、彼女の心理は分かりますよね(^^;

フロイトの“防衛機制”の中の『反動形成』が強く働いています。

喫茶店という場所でなければ、別の結果になっていたかもしれません（多分…）

恋愛ではTPOが重要ですが、若い時には、中々それに気が付きません。

結局、半年後に彼女は会社を辞め、その後結婚生活に入ったようです。

えッ！肝心の『手紙』の話は何処へ行ったのかって…？

実は、まだまだ先が続くのです。

彼女が辞める時、お手紙を渡しています。

「人生、悩みがあったら何時でも相談に乗る」というような趣旨で…

これも、女性陣からは大ブーイングですよ(^^;

そして、数ヵ月後のある夏の日、会社の仲間と海水浴へ行く支度をしていました。前回のプロフィールに使った写真の頃です。

土曜日の午前中、彼女から聞きなれた声の電話がありました。

「私離婚して、家を出てしまったの…」 「……。汗。」

「今日、何処かで会えないかな～あ？」

海水浴へは、私の車も含め3台の予定でした（この時、もとの会社に戻っています）車2台では、仲間全員が乗りきれません。

手短かに事情を説明し、「良かったら一緒に海へ行かないか？」と誘ってみました。

あまりにも突然のことだったので、結局すれ違いになってしまいました。

携帯電話やメールが当たり前の現在では、別の展開になっていたことでしょう。

帰宅後、彼女の母親宛に手紙を書いています。

その手紙の下書きがファイルに挟んで残っていました。

私のところに連絡があった事、家出した彼女を叱らないで受け入れてあげて欲しいなどが書かれています。まるで兄妹を思うような文面です。

同じファイルに、サラダドレッシングのレシピが書かれていました。

彼女伝授の特性ドレッシング…



恋愛感情と料理は、何処かで繋がっているようです。

人間の味覚は、舌で味わいます。（恋愛のスタートは Kiss からです）

しかし、その他の器官でも食道や胃は大事な役割を果たしており、目や耳、そして鼻からの匂いまで含めて、五感をフルに使います。

場合によっては皮膚感覚も重要な役割を担っています。

皮膚という文字の中には**胃**という文字が含まれているのに気が付きました。

人間の内臓や感覚器官は、皮膚に包まれているのではなく、まさに皮膚の延長なのです。

マクレガーのコロン、若かりし頃の思い出の香りです(^^)

さて、次回は???